

出張報告書

下 関 市 議 会 議 長 殿

令和6年(2024年)10月18日

職氏名 下関海峡エリアビジョン調査特別委員会 特別委員長 板 谷 正 委 員 林 真 一 郎 委 員 江 村 卓 三 委 員 吉 村 武 志 委 員 坂 本 晴 美 委 員 山 野 陽 生 担当書記 議事課主任 飯 田 洋 詩 (以上7名)	用 務 先進地視察・所管事務調査 ① 港の賑わい創出の取り組みについて ② びわこ花噴水について ③ びわ湖テラスについて
期 間 令和6年7月16日(火)から 7月18日(木)まで	出張先 神奈川県 横浜市(①) 滋賀県 大津市(②、③)

《調査事項・意見》

当特別委員会では、神奈川県横浜市において、横浜赤レンガパークの現地視察を行った。また、滋賀県大津市において、びわこ花噴水の取り組みについて説明を受けるとともに、びわこ花噴水及びびわ湖テラス（びわ湖バレイ）の現地視察を行ったので、その概要を報告する。

1. 神奈川県 横浜市

(人口 約375万3千人、面積 約438km²)

横浜赤レンガパークを訪問した。港の賑わい創出の取り組みについて、別添資料に基づき説明を受けた後、質疑応答を行った。

また、赤レンガパーク敷地内及び赤レンガ倉庫館内の現地視察を行った。



[説明者]

横浜市港湾局賑わい振興課 高嶋課長、櫻井担当係長 ほか

① 港の賑わい創出の取り組みについて

<横浜赤レンガ倉庫・赤レンガパークの概要>

横浜赤レンガ倉庫は、明治末期から大正初期にかけて建設された保税倉庫で、平成元年（1989年）に倉庫としての用途が廃止された後、港のシンボル「ハマの赤レンガ」として親しまれてきた歴史的資産の継承を目的として、平成4年（1992年）に市が国からその土地と建物を取得し、保存・改修工事が行われた。

その後、約9年間に及ぶ大規模な保存・改修工事を経て、平成14年（2002年）に「港の賑わいと文化を創造する空間」をコンセプトとする文化・商業施設として生まれ変わった。令和4年（2022年）には開業以来初となる大規模改修が行われ、バルコニーのソファ席の増設やペット同伴可能エリアの拡大のほか、商業施設66店舗がリニューアルオープンした。（うち25店舗が新規出店）

1号館は1階にファッション・雑貨やカフェ、2・3階にイベントホールや展示スペースを備えた文化施設、また、2号館は1～3階に飲食店や雑貨、土産品などの各種ショップやフードコートを備えた商業施設となっている。1号館と2号館の間の2棟間広場と水際線に整備された赤レンガパーク（約6.6㎡）では年間を通じて様々なイベントが開催されており、横浜を代表する観光名所となっている。



【赤レンガ倉庫 1号館】



【赤レンガ倉庫 2号館】



【2棟間広場】

<回遊性向上のための取り組み>

令和6年3月にサークルウォークと新港ふ頭旅客ターミナルを結ぶ、新港歩行者デッキ「ハンマーヘッドウォーク」が整備された。桜木町駅からロープウェイやサークルウォークを経てハンマーヘッドパークに至る安全・快適な歩行者ルートが形成されたことにより、みなとみらい21（中央地区）や赤レンガパーク等への回遊性が向上した。



【サークルウォーク】



【ハンマーヘッドウォーク】



【YOKOHAMA AIR CABIN】
（ロープウェイ）

令和4年3月には、みなとみらい21の臨海パークから赤レンガ倉庫・パーク等のある新港地区、象の鼻パーク、大さん橋、山下公園までの水際線の約5kmが、ウォーキング・ランニングを楽しめるコース「BAYWALK YOKOHAMA（ベイウォーク横浜）」として設定され、約500m毎に距離と現在地を示すサインが路面に表示されている。



【路面に表示されたサイン】

また、令和4年度から民間事業者と連携して、カップヌードルミュージアムパークから赤レンガパーク間の水際線約1kmで「BAY WALK MARKET（ベイウォークマーケット）」が開催されており、水際線の賑わい創出と回遊性向上のための取り組みが進められている。

<設置等許可制度について>

横浜市では、平成30年に港湾施設条例の改正が行われており、令和元年4月から港湾緑地において民間事業者が便益施設等を設置することが可能となっている。また、民間のノウハウや資金をより積極的に活用するため、令和4年4月からは、市が設置した建物等を民間事業者が店舗等の便益施設として整備・運営できるよう、制度の拡充が行われている。

令和3年8月には設置等許可制度によって、カップヌードルミュージアムパーク内にグランピング施設がオープンした。港の眺望を楽しめる円形2階建てのデッキや散策路が民間事業者により整備され、海や緑を感じながら夜も明るく食事ができる賑わいを生む緑地へと改善された。夜間の警備や周辺の清掃等も民間事業者が行っている。

赤レンガパーク休憩棟は供用開始から20年が経過しており、各種設備の更新時期を迎えていることから、設置等許可制度を活用して、民間活力を導入したカフェやにぎわい施設等への整備が検討されており、令和6年度には赤レンガパーク改修事業として、電気設備等の改修のための予算が計上されている。

臨港パーク北側の潮入の池付近には、民間事業者によるカフェ・レクリエーション施設の整備が進められており、令和7年度にオープン予定となっている。1階にカフェ、2階にアウトドアショップやランニングステーション、3階にレストランが入居予定。



【カップヌードルミュージアムパーク（グランピング施設）】



【赤レンガパーク休憩棟】

<主な質疑応答等>

Q 赤レンガパークの平日や夜間の賑わいの状況はどうか。

A 赤レンガ倉庫などでイベントがある際には多くの賑わいが見られるが、特に赤レンガパークの端にある休憩棟側には平日はあまり人がいないような状況である。

Q 賑わい創出のためにどのような対策を取られているか。

A イベントを単発で行うのではなく、各主催者間で連携を取りながら、一定の期間にイベントを集中して開催している。ただし、イベントが行われる休日等に人が集中し過ぎてしまうことで交通渋滞等の課題も発生している。

Q 赤レンガパーク改修事業について

A 設置等許可制度を活用した赤レンガパーク休憩棟（公共トイレを併設）の改修を予定しているが、現在、当該施設には水道や照明等の最低限のインフラしか備わっていないことから、民間事業者が事業進出を検討する上での選択肢を広げるため、公募前に電気設備等の改修を行うものである。

Q BAY WALK MARKETにおいて、ドックマーケットやドックランなどのペットを連れて楽しめるイベントが開催されるようになった経緯は。

A 以前からペットを連れて楽しめるイベントについては需要があり、集客率が高く、収益性もあることから定期的に開催している。また、平日にはペットの散歩コースとして利用される方も多い。

Q 水上交通を充実させるための取り組みについて

A 港湾局が所管している海側には民間事業者が行う水上バス等の水上交通が充実している。今後は河川側の水上交通を充実させることで、内陸部にも賑わいが生まれるように、都市整備局のほうで実証実験を行っている段階である。

Q BAYWALK YOKOHAMAとして、ウォーキングやランニングをされる方への動機づけはどのようにされているか。

A コース上の路面に距離と現在地を示すサインを設置している。コース上には信号がなくウォーキング等が快適に楽しめるため、早朝や夜間などの利用者が多い。シンボルとなるような構造物や植栽等を造り過ぎてしまうと、ウォーキングやイベントを開催する際の障害物となってしまうため、バランスを考えながら整備が必要だと思う。

Q 下関市においてウォーターフロントエリアの整備を進めていく上で、市民が日常的にウォーターフロントエリアを利用しやすくなることが賑わいを継続していくためには必要と考えるが、横浜市での取り組みはどうか。

A 横浜市でも世界に誇る水際線として力を入れて整備を進めており、さらなる賑わい創出のため、また、その賑わいをどうすれば内陸部のほうまで引き込むことができるかを関係部局間で多岐にわたって議論しているところである。

2. 滋賀県 大津市

(人口 約34万4千人、面積 約464km²)

滋賀県議会を訪問した。びわこ花噴水について、別添資料に基づき説明を受けた後、質疑応答を行った。

また、視察終了後にびわこ花噴水（夜間ライトアップ）の現地視察を行った。



[説明者]

滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室 沼田室長、堀川係長
琵琶湖汽船株式会社 小林係長 ほか

② びわこ花噴水について

<びわこ花噴水の概要>

- ・ 名 称：噴水施設（愛称「びわこ花噴水」）※港湾施設の一部として設置
- ・ 設 置：滋賀県（着工：平成6年11月 竣工：平成7年3月）
- ・ 管 理：噴水運転 ⇒ 協議会（県・市・観光協会が構成員）
維持管理 ⇒ 滋賀県（大津港指定管理者：琵琶湖汽船株式会社）
- ・ 位 置：大津港沖合180mの防波堤上（堤長450m）
- ・ 規 模：① 放射噴水 66本（3本束×22機）
長さ 約440m（約40m×11か所）
高さ 上段噴水 約30m、中段噴水 約22m、下段噴水 約15m
② 直上噴水 2本
高さ 約40m
- ・ 放 水：平日は2回／日 土日祝は3回／日 ※夏季は節電のため運転休止有り
数種のパターンをコンピューター制御
- ・ 照 明：夜間は3色（透明、橙、緑）の光でライトアップ



【びわこ花噴水（湖面に見える防波堤に噴水を設置）】



【大津港ターミナル】

<設置に至った経緯>

昭和60年に大津港の整備基本計画が策定される。琵琶湖総合開発事業における琵琶湖の水位低下対策と併せて、運輸省の補助事業により大津港改修整備事業が進められ、平成11年3月に概ね事業が完了した。

びわこ花噴水は、大津港の観光港としての付加価値を創出するために整備されたもので、当時の記録によると、花噴水の設置に至った経緯・理由等は以下のとおり。

- ・防波堤の範囲に収まり、船舶の航行に影響がなく、立体的な演出ができること
- ・防波堤は陸上から離れていることから、見映えする大規模な施設であること
- ・「動きのある風景」を演出できるものであること
- ・水質浄化のシンボルとして、環境問題を考えるきっかけとなること

<設置による効果>

- ・経済効果

ア) 来訪者の増加による経済効果

花噴水の夜間ライトアップ等を目的とした大津港への来訪者が増えることで、観光船のナイトクルーズへの乗船客の増加や、周辺施設での宿泊・飲食・購買等の行動につながる。

イ) 地域価値の増加による経済効果

花噴水が存在することで大津港が魅力ある場所となり、周辺地域の商業地域、住宅地域としての価値が増大する。また、花噴水は臨時運転もできることから、大津港自体もイベント会場としての価値が高まる。

※なお、大津港は誰でもいつでも出入りができるオープンな空間であること、また、花噴水は離れた場所からでも見るができることから、花噴水のみを目的とした観光客数等の定量的な効果は確認することができない。

- ・環境効果 水流が悪くなりがちな港内において、曝気による水質浄化効果をもたらしている。（水中に酸素を送り込むことで浄水効果を得るもの。1日当たり2～3回、30分～1時間程度運転している）

<設置費用及び維持管理費用>

- ・設置に係る事業費

工事費：4億6,700万円（うち寄付金約4,600万円を工事費に充当）

※約9割を一般財源から支出。国からの補助金等はなし。

- ・維持管理費（説明資料から過去5年度分のみを抜粋）

※費用は滋賀県と大津市で折半して支出

（単位：円）

年度	電力料金	修繕費	保険料	委託料	備品購入費	合 計
R 5	3,632,465	1,126,000	791,960	2,855,600	0	8,406,025
R 4	3,480,246	476,344	756,220	2,855,600	3,300	7,571,710
R 3	2,633,163	691,680	697,200	2,855,600	337,920	7,215,563
R 2	1,784,419	1,459,150	697,200	2,855,600	137,220	6,933,589
R 1	3,176,488	646,860	697,200	3,473,420	474,650	8,468,618

<事業の課題>

- ・噴水の設置から約30年が経過しており、施設の老朽化が課題である。
- ・故障が頻発しており、毎年度修繕を行っている。特に以下の箇所で修繕が度々必要となっており、毎年度一時的な停止が複数回発生している。
 - ア) 高圧電気ケーブル（水中ケーブル。経年劣化により漏電の恐れが増加している）
 - イ) 照明施設（水銀灯を使用。使用品の製造中止によりLED化が必要である）
 - ウ) 制御施設（耐用年数を大きく経過しており、不具合が頻発している）
- ・長期に延命させるためには、大規模な修繕が欠かせないが、概算で総額7億円ほどが必要と見込まれ、国の補助金も得られる見通しが立っていない状況である。

<今後の取り組み>

びわこ花噴水は、大津港だけでなく大津市の観光名所としても必要であることから、今後とも維持管理を続けられるよう、施設の更新や大規模修繕などに向けた検討を重ねていくとのことであった。（故障により噴水の運転を停止していると、旅行会社等から運転再開についての問い合わせがあるとのこと）

<びわこ花噴水（夜間ライトアップ）の様子>



<主な質疑応答等>

- Q 故障により噴水を停止する場合はどのくらいの期間になるのか。
- A 落雷により装置故障が起き、代替部品の調達等に時間を要したため、令和4年度には約2か月間運転を停止していたことがある。
- Q 照明をLED化した場合はどの程度の費用が見込まれるか。
- A 既に3色の照明灯のうち1種類は水銀灯が入手できなくなっており、これをLED化した場合は約2,600万円と見込んでいる。3色の照明灯全てをLED化した場合は、この3倍強の費用がかかる見込みである。
- Q 停止期間を伴う故障は、設置後どの程度の期間で発生したか。
- A 設置後10年を経過した時期から故障が発生しており、平成17年（2005年）に出力ユニットが故障した。平成20年（2008年）には、落雷により制御システムが故障し、このときには修繕のために約2,700万円を要した。なお、落雷による故障の場合は保険が一部適用される。
- Q 水中のポンプに異物が入り込まないように何か対策を取られているか。
- A 水をろ過してポンプに送り込んでおり、水草等が詰まったことはない。

- Q 環境への効果（水質浄化効果）については設置当時から議論があったものか。
- A 設置当時にそのような議論があったかは確認ができない。当時は観光効果のほうに主眼を置いており、水質浄化効果については副次的なものであったように思う。
- Q 維持管理費のうち委託料の内容はどのようなものか。
- A 噴水施設の定期点検に係る費用で、民間の電気事業者への委託料である。
- Q 噴水の夜間ライトアップについて
- A 放水時に一定方向からライトアップを行うもので、音楽との連動等はない。各噴水のノズルは固定されており、放水量を制御システムにより調整することで噴水に動きをつけている。
- Q 落雷の被害が多いように思うが、避雷針等の対策は取られているか。
- A 避雷針は設置しているが、噴水施設が湖面の防波堤上にあることから、その効果が限定されているように思う。
- Q 下関市では海水を使った噴水の設置が検討されているが、海水を使用した場合にはどのような影響があると思われるか。
- A 淡水に比べると機器に与える影響が大きいように思う。防災の話になるが、消火の際に海水を使用するのは、大規模災害等で真水を使用できない場合の最終手段であると聞いている。それほど機器に与える影響が大きいのだと思う。
- Q 強風等により噴水を中止する要件はあるか。
- A 船舶の運航に影響があるため、風速10メートル程度で中止することになっている。
- Q 落雷以外に保険をかけることができるものがあるか。
- A その他にはない。なお、水中を通っている高圧電気ケーブルには保険が適用されることはなく、その修繕には約3億円の費用が見込まれることから、老朽化が進んでいるものの、修繕に至っていない状況である。
- Q 噴水の夜間ライトアップは賑わいの創出につながっているか。
- A 現在の来訪者は休日等で多くて15～20名程度で、冬季にはさらに少なくなる。しかしながら、大津市には夜間の観光スポットが少ないため、周辺の宿泊施設を利用される方が来訪される等、大津市の観光資源となっているように思う。



【滋賀県議会 議場にて】

③ びわ湖テラスについて

びわ湖テラス（びわ湖バレイ）を訪問し、現地視察を行った。

<施設概要>

びわ湖バレイは、アルピナB I 株式会社が運営するスキー場で、冬季以外の期間にもジップラインやアスレチック等の様々なアクティビティを体験することができる。山頂までは専用のロープウェイが運行されている。



打見山頂（標高1, 108m）にある「びわ湖テラス」は、琵琶湖を一望できる絶景スポットで、「THE MAIN」にはレストランやバー、テラスカフェ等が、また、蓬萊山頂（標高1, 174m）には「C a f e 3 6 0」と呼ばれる、アーチ状のウッドデッキが設けられている。

<現地視察の様子>



【打見山頂までのロープウェイ】



【THE MAIN 外観】



【グランドテラス】



【蓬萊山頂までのリフト】



【琵琶湖を望むブランコ】



【Cafe360 シート席】